

長岡造形大学研究紀要投稿要領

1. 投稿原稿の帰属と権利の利用について

原稿の著作権は原則として投稿者に帰属する。ただし、投稿者は当該原稿について、研究推進委員会（以下「委員会」という）が刊行または編集する書籍・雑誌・電子出版物に転載し、インターネットその他の方法による公衆送信を含めた当該原稿の反復利用に同意するものとする。

2. 論文

- ① 原稿は、1 篇につき約 12,000 字以内 8 ページ以内を原則とする。ただし、それ以上の分量を必要とする場合は、委員会の承認を経た上で、それ以上の分量を掲載することができる。
- ② 原稿の構成は、表題、著者名、要旨、キーワード、本文、注、参考文献等とする。注および参考文献は必要がない場合は省略できる。
- ③ 原稿は、電子原稿によるものとする。提出原稿における本文、注、参考文献等のレイアウトは、A4 版縦・2 段組・26 字（1 段あたり）・54 行・9 ポイント・横書きとする（ただし、⑥に定めるように投稿者が独自のレイアウトを作成する場合はこの限りではない）。また、原稿のプリントアウト 1 部をファイルと共に提出する。
- ④ 原稿は原則として横書きとするが、特に縦書きを希望する場合には委員会がこれを許可することがある。印刷時におけるレイアウトは委員会が決定する。
- ⑤ 写真等は、できるだけ現物を添付する。その場合、裏に通し番号とタイトルを記入する。また、写真等の電子原稿を提出する場合は、そのファイルとプリントアウト 1 部を本文等の原稿と共に提出する。この場合、ファイルを作成したソフトウェア（バージョンを含む）を明記する。
- ⑥ 文章および写真・図表等の最終的なレイアウトについては委員会が行うが、特にデザイン上必要がある場合は、委員会の承認を得て、紀要編集上可能な範囲において投稿者が独自のレイアウトを作成することができる。
- ⑦ 写真・図表等の挿入位置は本文の電子原稿中に明示する。この場合、原稿のファイルサイズが大きくなりすぎないように、文中に組み込む画像は元の画像とは別とし、解像度を落とすなどの処置をすることが望ましい。なお、写真または図表等におけるカラー印刷の使用については、委員会への申請によるものとし、最終的に委員会が決定する。
- ⑧ 表題、著者名、キーワードについては日本語・英語の双方で記述する。キーワードは 5 つまでとする。投稿者が院生または学生の場合は、学科（研究科）、学年、コース名（大学院の場合は研究領域、学部でコース配属されていない場合は省略）、学籍番号、指導教員名（学部 4 年または院生の場合）も記載する。
- ⑨ 要旨は、日本語または英語のうち、本文とは異なる言語により 10 行程度で記述する。
- ⑩ 本文は日本語または英語で記述する。
- ⑪ 注および参考文献は本文の後にまとめて記述する。
- ⑫ 参考文献は、単行本の場合は、著者：書名、ページ、発行所、西暦年号の順に記載する。雑誌の場合は、著者：題目、雑誌名、巻号、ページ、西暦年号の順に記載する。単行本のうち一篇を参照する場合は、著者：題目、単行本著者（編者）名：書名、ページ、発行所、西暦年号を記載する。
例（単行本） — 飛田範夫：日本庭園と風景、p. 15、学芸出版社、1999。
（雑誌） — 平山育男：長岡市山古志東竹沢関家住宅土蔵 新潟県における土蔵の独立した棟持柱について、日本建築学会北陸支部研究報告集 51, pp. 425～428, 2008。
（単行本のうち一篇を参照） — 平山育男：寝殿造と現代、倉田実編：現代文学と源氏物語、pp. 265～283、おうふう、2007。

3. 作品

- ① 原稿は、1 篇につき図表・写真とも刷り上がり 4 ページ以内を原則とする。ただし、それ以上のページ数を必要とする場合は、委員会の承認を経た上で、それ以上のページ数を掲載することができる。
- ② 原稿の構成は、表題、著者名、要旨、キーワード、作品の写真または図表等、その制作意図や制作過程等を記した説明文、注、参考文献等とする。要旨、注および参考文献は必要がない場合は省略できる。
- ③ 原稿は、電子原稿によるものとする。提出原稿における説明文、注、参考文献等のレイアウトは、A4 版縦・2 段組・26 字（1 段あたり）・54 行・9 ポイント・横書きとする（ただし、⑥に定めるように委員会の承認を得て投稿者が独自のレイアウトを作成する場合はこの限りではない）。また、そのプリントアウト 1 部をファイルと共に提出する。
- ④ 写真等は、できるだけ現物を添付する。その場合、裏に通し番号とタイトルを記入する。また、写真等を電子原稿として提出する場合は、そのファイルとプリントアウト 1 部を説明文等の原稿と共に提出する。この場合、ファイルを作成したソフトウェア（バージョンを含む）を明記する。
- ⑤ 写真・図表等の挿入位置は説明文等の電子原稿中に明示する。この場合、原稿のファイルサイズが大きくなりすぎないように、文中に組み込む画像は元の画像とは別とし、解像度を落とすなどの処置をすることが望ましい。なお、写真または図表等におけるカラー印刷の使用については、委員会に申請し、最終的に委員会において決定する。
- ⑥ 文章および写真・図表等の最終的なレイアウトについては委員会が行うが、特にデザイン上の必要がある場合は、委員会の承認を得て、紀要編集上可能な範囲において投稿者が独自のレイアウトを作成することができる。
- ⑦ 表題、著者名、キーワードについては日本語・英語の双方で記述する。キーワードは 5 つまでとする。投稿者が院生または学生の場合は、学科（研究科）、学年、コース名（大学院の場合は研究領域、学部でコース配属されていない場合は省略）、学籍番号、指導教員名（学部 4 年または院生の場合）も記載する。
- ⑧ 要旨は、日本語または英語のうち、説明文とは異なる言語により 5～10 行程度で、作品制作の概要を記述する。
- ⑨ 説明文は日本語または英語で記述する。
- ⑩ 注および参考文献は説明文の後にまとめて記述する。

参考文献は、単行本の場合は、著者：書名、ページ、発行所、西暦年号の順に記載する。雑誌の場合は、著者：題目、雑誌名、巻号、ページ、西暦年号の順に記載する。単行本のうち一篇を参照する場合は、著者：題目、単行本著者（編者）名：書名、ページ、発行所、西暦年号を記載する。

例（単行本） — 飛田範夫：日本庭園と風景、p. 15、学芸出版社、1999.

（雑誌） — 平山育男：長岡市山古志東竹沢関家住宅土蔵 新潟県における土蔵の独立した棟持柱について、日本建築学会北陸支部研究報告集 51, pp. 425～428, 2008.

（単行本のうち一篇を参照） — 平山育男：寝殿造と現代、倉田実編：現代文学と源氏物語、pp. 265～283、おうふう、2007.

4. 修士論文及び特定の課題についての研究の成果

紀要刊行の前年度に大学院造形研究科修士課程 2 年に在籍した院生が提出した修士論文及び特定の課題についての研究の成果の概要を投稿することができる。その要領は、修士論文の場合は「論文」、特定の課題についての研究の成果の場合は「作品」に準じる。

5. 博士論文

本学に提出され所定の審査に合格した博士論文またはその概要、および本学教職員が他大学に提出し所定の審査に合格した博士論文またはその概要を投稿することができる。その要領は、「論文」に準じる。

6. 特別研究報告

特別研究の予算枠を得て行われた専任教員による研究について、研究の当該年度の次年度の紀要にその報告を掲載しなければならない。その他の要領は、論文の場合は「論文」、制作の場合は「作品」に準じる。

7. その他

2～6 以外の原稿（例として、研究ノート、書評、評論、調査報告、資料紹介など）の掲載を希望する場合は、事前に委員会に申し出ること。分量等の執筆条件は委員会と協議の上、委員会が決定するものとする。

附則 この要領は、平成 26 年 6 月 19 日より適用する。

附則 この要領は、平成 29 年 6 月 1 日より適用する。

附則 この要領は、平成 30 年 6 月 11 日より適用する。